

特別寄稿—海外河川事情レポート②—

第4回世界水フォーラムと国連の取り組み

国土交通省 関東地方整備局 荒川上流河川事務所
所長 今村 能之 (前ユネスコ派遣専門家)

1. はじめに

私は昨年6月までのユネスコ水科学部在任時(2000年7月～2005年6月)及び河川局河川計画課勤務時(1999年4月～2000年7月)に、様々な立場から水に関する国際的な取り組みに関わってきました。その中でも世界水フォーラムと国連の取り組みには関わりが深く、世界的な水問題への関心が高まりつつあった第2回世界水フォーラム(2000年3月、オランダで開催)においては閣僚級会議を含めた日本のコーディネーターとして、ユネスコ派遣後は国連・ユネスコで世界的な問題解決にあたる立場として、国連機関共同プロジェクトである世界水アセスメント計画(WWAP: World Water Assessment Programme)の創設、第3回世界水フォーラム(2003年3月、日本で開催)へのユネスコやWWAPの参加、そしてユネスコの水災害・リスクマネジメント国際センター(ICHARM)の設立に関わってきました。更に第4回世界水フォーラムが開催されるにあたり、荒川の取り組みを世界に発信する展示などの活動を行いました。そこで、これまで関わってきた活動の具体的な成果とその状況を紹介します。

2. 第4回世界水フォーラム

2.1 世界水フォーラムと日本

水と衛生や水災害は地球規模の深刻な問題であり、世界の持続可能な開発及び貧困削減の促進のため、喫緊の対応が必要との認識から世界的な関心を集めています。一方、我が国は、その国土の特性や歴史上、各分野の水政策に広範かつ優れた知見を有しています。このような我が国の有する水分野における国際貢献のポテンシャルが広く知られるようになり、2003年に第3回世界水フォーラムを主催するなど、水に関する国際的及び地域的取り組み・協力を主導的役割を果たしつつあります。

「地球規模の課題のための地域行動: Local Actions for a Global Challenge」をテーマとする第4回においても、第3回の成果と約束を着実に実行しつつ、水問題に関する世界の関心喚起、政策提言、情報共有、能力向上支援等の面で積極的に貢献しました。

2.2 第4回世界水フォーラム及び閣僚級会合

1) 開催概要

日程: 2006年3月16～22日(21～22日は閣僚級

会合)

開催場所: メキシコシティ、バナメックスセンター(国際会議場)及びカミノ・レアル・ホテル
フォーラムの構成: フォーラム(含、約150の分科会)、水関連展示、閣僚級国際会議、水関連賞授与式(ハッサンII世賞、京都水大賞)等

参加者: 約140ヶ国から約1万9千人の各国政府、国際機関、民間企業、NGO、研究機関等の関係者が参加(我が国からは、皇太子殿下、橋本元総理、江崎国土交通副大臣、江田環境副大臣、及び国土交通省、外務省、環境省、農水省、林野庁、厚生労働省、土木研究所などの研究機関、民間企業、日本水フォーラムなどのNPOから300名以上が参加)



写真-1 メイン会場のバナメックスセンター



写真-2 フォーラムの様子

2) フォーラム (3月16~22日)

初日には、皇太子殿下(第3回世界水フォーラム名誉総裁)が開会式に御出席され、挨拶を述べられました。翌17日には「江戸と水運」と題する基調講演をされ、2月14日に現地視察をされた埼玉県の見沼通船堀を含め地域の実状・歴史に沿った取り組みの重要性に触れられました。

同じ16日、橋本元総理が議長を務める国連「水と衛生に関する諮問委員会」より、水と衛生問題解決に向けた「行動計画 (Compendium of Actions)」が発表されました。

全体で約150にのぼる分科会が行われ、そのうち我が国からの参加者が約30以上の分科会を開催しました。

3) 閣僚級会合 (3月21~22日)

6つのテーマ(資金調達、統合水資源管理、水の効果的利用、地方分権化、監視メカニズム、水と環境)についてのラウンド・テーブル(分科会)が開催され、今フォーラムのテーマである「地球規模の課題のための地域行動」の下、持続可能な開発に向けた水問題の重要性、国際合意や約束の更なる推進のための今次フォーラムの貢献等について謳った閣僚宣言が採択されました。

また、持続可能な開発に関する水行動連携データベース(CSD・WAND)が新たに発表されました。第3回世界水フォーラム閣僚会合の成果として我が国が主導してきた「水行動集(PWA)」を国連との協力の下で発展・拡大したもので、第4回世界水フォーラムで提示された各種地域行動をも網羅した新データベースを構築します。

世界水フォーラム (World Water Forum)

世界の水問題について協議するために、世界水会議(WWC: World Water Council)が主催する国際会議で、3年に一度、3月22日の「国連水の日: World Day for Water」を含む1週間程度で開催されています。

第1回世界水フォーラムは、1997年にモロッコのマラケシュで、第2回は2000年にオランダのハーグで開催されました。第3回フォーラムは2003年3月に日本(京都、滋賀、大阪)にて開催され、皇太子殿下が同フォーラムの名誉総裁を、橋本元総理が運営委員会会長を務められました。また、第2回フォーラムから期間中に閣僚級会合が開催されるようになりました。次回第5回フォーラムは、2009年にトルコのイスタンブールで開催される予定となっています。

2.3 水のEXPO・日本パビリオンでの情報発信

水フォーラムの一つの柱である「水のEXPO」は企業やその他の組織が行う水関連の展示会であり、およそ700のブースが出展されました。日本からは積極的に展示を行うべく、日本の産・官・学・NPOというあらゆるステークホルダーが一体となって日本の水に関する取り組み・技術を紹介する「日本パビリオン」を出展しました。24団体によるこの取り組みは初の試みでした。



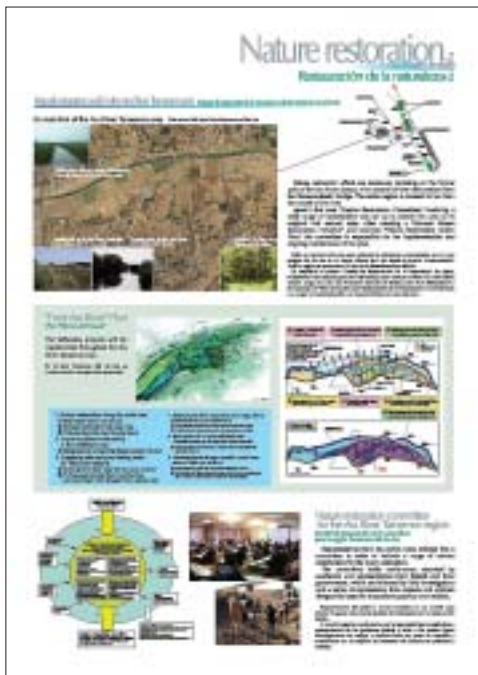
写真-3 日本パビリオンの様子

荒川上流河川事務所としても、荒川における取り組みを世界に広く発信するとともに、世界各国の参加者との意見交換を行うことを目的として、日本パビリオンに出展を行い、ブースでのパネル展示とパンフレット配布を行いました。一般来場者及びフォーラム参加者の多くはメキシコを中心とする中南米諸国の人が多いことを想定し、パネルについては英語・スペイン語の併記、パンフレットについては英語版、スペイン語版をそれぞれ用意しました。更に来場者に対し荒川での取り組みなどに関する英語及びスペイン語のアンケートを実施しました。

展示内容は、荒川流域における自然再生事業や治水事業等の事例をとりあげることとし、荒川流域ネットワークなど流域市民団体等とも協力し、これらの活動について紹介しました。

展示を行ったパネルの構成は以下のとおりです。

- パネル1 日本河川の概要
- パネル2 荒川の概要
- パネル3 治水/利水
- パネル4 自然再生事業(全体)
- パネル5 荒川太郎右衛門地区自然再生事業
- パネル6 三又沼ビオトープ
- パネル7 市民による利用



図ー1 展示パネル5
(荒川太郎右衛門地区自然再生事業)

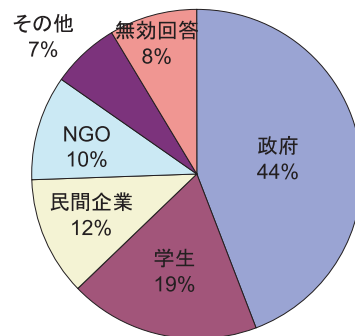
現地での来場者には、日本から派遣のスタッフと流域市民団体の代表として荒川流域ネットワークからの参加者が対応し、現地語学スタッフがサポートしました。

プレゼンテーションや展示ブースでの説明では、なぜ行政と市民が連携し始めたのか、どのように荒川太郎右衛門地区自然再生協議会をすすめているのか、なぜ行政のプロジェクトの説明と市民活動の内容を一緒に展示してその説明を市民活動団体が説明をしているのか、といった質問を多く受けました。行政・市民の連携と自然再生事業に関心が高いこと、日本では当たり前となりつつあるNPOなどの市民活動団体と行政との連携が、国際的には一般的でないことがうかがえます。



写真ー4 荒川流域ネットワークのメンバーによる説明

来場者へのアンケートに対する回答数は59で、産官学NGOからバランスよく回答を得ることができました。



図ー2 アンケート回答者の内訳

関心のある水問題についてたずねたところ、メキシコの回答者が多かったことを反映して水質汚濁、環境破壊、水不足という答えが多く見られました。また、洪水を中心にした水災害を問題とした回答数が多かったことは、昨年アメリカを襲ったハリケーンによる被害も影響していると考えられます。

また、荒川の展示において関心の高かったパネルについてたずねたところ、荒川流域における自然再生事業全体を説明したパネル4と治水・利水に関する取り組みを示したパネル3を挙げる人が多い結果となりました。

3. 国連世界水アセスメント計画 (WWAP) と国連

3.1 世界水アセスメント計画とは

世界水アセスメント計画 (World Water Assessment Programme: WWAP) は、水供給や衛生、水災害など淡水に関する問題を地球規模で包括的に評価し、問題の改善を目指すユネスコ、WHO、WMOなど24の水関連国連機関共同の取り組みです。WWAPは、国連持続可能な開発委員会 (CSD: Commission on Sustainable Development) の勧告や、2000年3月にハーグで開催された第2回世界水フォーラムの閣僚会議からの強力な支持を受けて、2000年8月にユネスコ本部に事務局が設立され、活動を開始しました。

WWAPの主な活動は、以下のとおりです。

- 世界の淡水資源及び関連する生態系の状態の評価
- 重要な課題・問題点の同定
- 持続可能な水資源利用の進展を評価するための指標の開発
- 各国の評価能力の向上を図るための支援
- 活動内容をとりまとめた「世界水発展報告書 (WWDR: World Water Development Report)」

の定期的(3年毎)刊行

私は設立準備段階(2000年7月)から事務局メンバーとして、WWAPの創設、フェーズ1(2000年8月から2003年6月)の実施、フェーズ1の成功を受けてのフェーズ2(2003年7月から2006年6月)の立ち上げ、及びフェーズ2の方針策定に携わってきました。この間、当初秘書を含めても4名だった事務局メンバーも約20名に増え、日本政府に加え英国、フランス、トルコ、スペイン、イタリアなどがドナー国として加わり、協力国も数十ヶ国に拡大しました。そして、WWAPが水分野の国連機関共同の最重要プログラムと位置づけられるようになりました。

3.2 世界水発展報告書(WWDR)

WWDRの出版はWWAPの核の一つとなる活動で、2003年3月に第3回世界水フォーラムで発表されたWWDR第一版においては、ケーススタディとして荒川を含む「東京大都市圏」などが日本からの貢献として盛り込まれています。

そしてその第二版が本年3月にメキシコにおいて発表されました。第二版では、ガバナンスの観点の強化や国際河川流域を含むケーススタディの数が大幅に増やされるなどの充実が図られています。この内容は今後更に世界広がり、様々な取り組みに影響を与えていくでしょう。

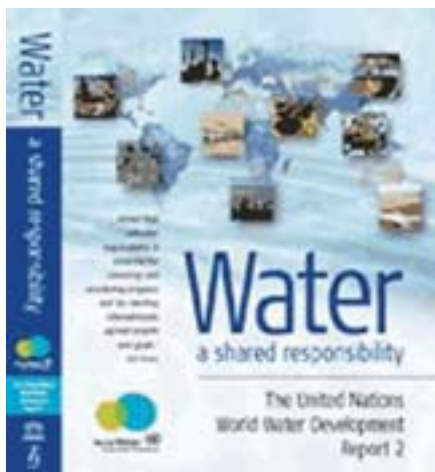


図-3 WWDR第二版の表紙

4. ICHARMの設立と活動

2003年3月京都・滋賀・大阪で開催された第3回世界水フォーラムの際、松浦ユネスコ事務局長と中馬国土交通副大臣(当時)との会談で、世界の水問題の解決に貢献するために日本にユネスコ水センターを設置することについて合意がなされ、同フォーラムの閣僚会議の基調講演において松浦ユネスコ事務局長からユネスコ及び日本政府の国際貢献の約束

として発表されました。この合意に基づき、茨城県つくば市にある独立行政法人土木研究所に「水災害・リスクマネジメント国際センター(ICHARM: International Centre for Water Hazard and Risk Management under the auspices of UNESCO)」を設立する準備が進められ、このたび正式に発足しましたのでここに紹介します。

4.1 ICHARMとは

洪水や渇水などの水に関連する災害は、人類の持続可能な開発、貧困の削減を実施するために克服すべき主要な課題の一つです。世界各地で頻発する水関連災害への適切な対応は、2002年に南アフリカ共和国・ヨハネスブルグで開催された国連持続可能な開発に関する世界首脳会議(WSSD: World Summit on Sustainable Development)や2003年に京都・滋賀・大阪で開催された第3回世界水フォーラム、2005年に神戸で開かれた国連防災世界会議(UN WCDR: UN World Conference on Disaster Reduction)を始めとする国際会議において、その迅速な実施の重要性が認識・提言されてきました。また、ユネスコ国際水文学計画(IHP: International Hydrological Programme)は、水問題の重要性に鑑み、水分野の特定テーマごとに国際的な拠点となるユネスコセンターを世界各地に設立し、国際的な情報の流通、共有化、連携を図ることにより、世界的な水問題の解決に貢献しています。

このような背景の下、国内において先進的な治水、水資源などについて多面的な研究を実施し、WWAPの東京大都市圏ケーススタディなどの業績が国際的に高く評価されている土木研究所に水災害に関するユネスコのセンターが設立されることになりました。

初代センター長には竹内邦良氏(山梨大学大学院教授、ユネスコIHP国内委員会委員長)が就任し、組織は設立当初1研究グループ(水災害研究グループ)と3研究チーム(国際普及チーム、防災チーム、水文チーム)で編成され、日本人スタッフと国際公募による研究者で構成されています。

IHP (International Hydrological Programme 国際水文学計画)

ユネスコは「水及び関連する生態系」に関する取り組みを最優先課題の一つとしていますが、その中核として推進されている活動を包括したものがIHPです。現在2002年から2007年までを計画期間とする第6期プログラムの途上にあり、地球規模の変化と水資源、地下水を含む総合的な水循環、生態水文学、水と社会、

水問題に関する教育・訓練といった5つの戦略テーマを掲げ、水循環の科学的研究、水資源の持続可能な管理に関する研究・提言及び途上国における教育・能力開発の推進に力を注いでいます。IHPの具体的な活動を担う組織として、これまでにICHARMを含め、デルフト、北京、クアラルンプール等世界13ヶ所にそれぞれの分野を担当するユネスコIHPセンターが設置されています。ICHARMは、水災害の防止・軽減をテーマとする国際拠点として位置づけられています。

4.2 ICHARMの設立

日本政府は2004年3月、ユネスコに対して正式にICHARM設立の提案書を提出しました。この提案は、IHP政府間理事会やユネスコ執行委員会での審議を経て、2005年10月のユネスコ総会において加盟191ヶ国の承認決議を受けました。その後、2006年3月に国際合意書調印を経てICHARMが正式に発足しました。

2006年3月3日にパリのユネスコ本部において多数のユネスコ加盟国代表者の出席の下、ICHARM設立に関する2つの合意書（日本政府とユネスコ、土木研究所とユネスコ）の調印式が行われました。調印式に先立って松浦事務局長が坂本土研理事長と会談し、センター設立に対する日本政府と土木研究所の努力に感謝の意を表明しました。また、ICHARMが既存のユネスコセンターと発展的に結びつき、国際拠点となることを期待すると述べました。



写真－5 調印式の様子

(左から、佐藤ユネスコ日本代表部大使、松浦ユネスコ事務局長、坂本土木研究所理事長)

2006年3月6日、土木研究所本館講堂においてICHARMの開所式が、関係省庁、自治体、関連機関の代表者出席の下、開催されました。開所式に続いて新たに建設されたICHARMオフィス玄関前において来賓による除幕式が行われ、竹内センター長からセンター開設にあたっての所信表明が行われて、国旗、国連旗、土木研究所旗の掲揚が行われました。



写真－6 除幕式の様子

参考文献

- 1) 今村能之、「“Water in Rivers” 事前会合の開催」、川のMONTHLY INFORMATION 9月号、1999年、(財)河川情報センター
- 2) 今村能之、「世界水ビジョン東京会議が開催される」、リバーフロント VOI37、2000年、(財)リバーフロント整備センター
- 3) 建設省河川局河川計画課、「第2回世界水フォーラムに向けての準備会議開催される」、河川 1月号、2000年、(社)日本河川協会
- 4) 今村能之、「第2回世界水フォーラムに参加して—The second World Water Forum in the Hague, the Netherlands」、河川 5月号、2000年、(社)日本河川協会
- 5) 建設省河川局河川計画課、「第2回世界水フォーラム開催される」、MCM 建設月報 6月号、2000年、(社)建設広報協議会
- 6) 今村能之、「ユネスコ国際水文計画政府間理事会及び世界水発展レポートプロジェクトについて」、河川 7月号、2000年、(社)日本河川協会
- 7) WWAP secretariat、「Water for People; The United Nations World Water Development Report」、2003年、UNESCO & Berghahn Books
- 8) 今村能之、「世界水アセスメント計画—第3回水フォーラムを契機とした新たな取り組み」、河川 5月号、2003年、(社)日本河川協会
- 9) 今村能之、「世界の水危機と国連の取り組み」、国際問題第521号、2003年、(財)日本国際問題研究所
- 10) 今村能之、「新所長から皆様へのご挨拶」、インフォメーション荒川 9月号、No. 535、2005年、国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所、http://www2.arajo.ktr.mlit.go.jp/journal/no_535/4.html
- 11) 貫名功二、國友優、横田妙子、「第4回世界水フォーラム」、河川 1月号、2006年、(社)日本河川協会
- 12) 外務省ウェブサイト(世界水フォーラム)、<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyo/wwf4/gaiyo.html>
- 13) 独立行政法人国立環境研究所ウェブサイト(国際研究計画・機関情報データベース)、<http://www.cger.nies.go.jp/cger-j/db/info/prg/wwap.htm>
- 14) 独立行政法人土木研究所ICHARMウェブサイト、<http://www.icharm.pwri.go.jp/centre/index.htm>